

1 5月5日から6日まで、あなたが京都に滞在されると聞いて喜んでおります。ファックスで、列車の到着時刻をお知らせください。当日もし雨になりましたら、私が駅まで車で迎えに参ります。 (日本女大・家政)

要点と方針

上級英作文といえども、時制は英作文の基本だ。まずは時制の正確な理解ができていのかを確認したい。「滞在される」「到着時刻」「雨になりましたら」の時制をどうするか。未来時制の使い分けがちゃんとできるかが鍵だ。

表現研究

● ～に滞在される (→ ～に滞在する)

- ① you are staying in ~ (○) ⇨ 予定
- ② you are going to stay in ~ (○) ⇨ 予定
- ③ you will stay in ~ (×) ⇨ 予想
- ④ you will be (staying) in ~ (○) ⇨ 「滞在することになる」
- ⑤ you stay in ~ (×) ⇨ 半永久的に滞在する

まずは時制の復習から始めよう。⑤のように現在形は不可。現在形は動作動詞のときは現在のことではなく〈半永久的なこと〉を表す。また、現在形で未来を表す用法は〈公の予定〉のみである。本文は〈個人的な予定〉であるから、現在進行形か **be going to** を用いるのが適当。これらは次のような使い分けがある。

- ・現在形 ⇨ 〈公の予定〉のみ
- ・現在進行形 ⇨ 〈スケジュール帳に書くような個人の予定〉
- ・**be going to** ⇨ 〈スケジュール帳に書かないようなことも含めてあらかじめ頭の中で決まっていること〉

スケジュール帳に書かないことでもよい分、**be going to** の方が現在進行形よりも使える範囲が広い。

③のような〈2・3人称+will〉は〈あまり根拠はないが自信満々の予想〉を表す。この問題では「5月5日から6日まで」とはっきり予定が決まっているので予想する必要はない。ただし、**will** でも④のように **will** の次が **be** 動詞のときは〈予定〉を表すことは可。

なお、「滞在される」は日本語の敬語だが、英語にそのまま訳すことはできない。時制で丁寧さを表現することはあるが、それについては後述する (p.12参照)。

● ～と聞いて喜んでいる

- ① I'm happy (○) to [hear (○) ; learn (○)] that SV ~
- ② I'm glad (○) to [listen to (×) ; find out (○)]

hear は「自然に耳に入る」、**listen to** は「意識的に耳を傾ける」。**learn** や **find out** が **that** 節 (**that SV**) を従えるときは「(調査や情報で)知る」。**learn** を「学ぶ」とだけしか覚えていないと、こういう場面のときに **learn** がひらめかない。**learn that SV** は「知る」という訳語で覚えておこう (p.123参照)。

● 5月5日から6日まで

- ① on the 5th and 6th of May (○)
- ② on May 5th and 6th (○)
- ③ from May 5th to 6th (△)

5日と6日では連続しているの、「5日と6日」と言えば十分。③の **from A to B** は、AとBが離れているときに用いる。「5日から7日まで」(**from 5th to 7th**) というように少なくとも間に1日は空くときに用いたい。

● 列車の到着時刻

- ① when your arrival time is (○)
- ② when you are arriving at the station (○)
- ③ when your train arrives (△) ⇨ 副詞節と紛らわしい
- ④ what time your train arrives (○)
- ⑤ what time you are going to arrive (○)
- ⑥ when your train will arrive (△)

①のように **arrival** という名詞を使うと簡単。②以降のように **arrive** という動詞を使うのであれば時制が問題になる。先程の解説に従い、②のように現在進行形は可。列車の到着時刻は〈公の予定〉なので③の現在形でもよいのではないかと思うだろうが、これだと「時・条件を表す副詞節中では **will** は使えずに現在形で代用する」という文法に従い、副詞節すなわち「列車が到着したとき～」